

こんどう 近藤さえ子の小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.23 2014年9月発行



夏になると個人のお宅や公共の建物で、グリーンカーテンが作られます。葉っぱの涼しげなゴーヤやアサガオなどを網に絡ませて、直射日光が部屋に入るのを防ぎます。節電とCO₂削減の一石二鳥で、環境省では「グリーンカーテンプロジェクト」として推奨しています。

我が家でも、この夏、アサガオのグリーンカーテンを作つてみました。毎朝咲く、色とりどりのアサガオの花が皆を楽しませてくれました。また、以前から取り組んでいたダンボールコンポストを堆肥に、ミニトマトを植えてみました。野菜作りは初めてでしたが、次々と真っ赤なトマトが実り食卓に載りました。

父のところに来る介護保険のヘルパーさんに「今朝はピンクのアサガオが咲いていますね」「見てください、トマトが色付き始めましたよ」と声をかけられ、父は、「娘が植えてくれたんだよ」と嬉しそうです。植物の話題で会話が弾みます。節電・CO₂削減・弾む会話、我が家のがグリーンカーテンは一石三鳥となりました。

猛暑が続き、気象の激しい夏でした。季節の変わり目、皆様どうぞ自愛ください。



区長選の結果

6月8日の区長選挙で、田中区長が4期目の当選を果たしました。

投票率は、4年前の30.28%を下回る29.49%。この結果を受けた区長は所信表明で「今回の選挙結果は、これまで区民が力をあわせて作り上げてきた成果を、これからも共に前進させていこうと言う力強い区民の意思の表れであると受け止めている」と発言し、また、「全ての区民が参加し、支えあえるまちの構築が経済の活性化を守り、持続可能な地域社会を構築するためにも唯一の方法であると考える」と語りました。

しかし現実問題として、民生委員の欠員、次世代委員の欠員、町会の加入率の伸び悩み等、多くの区民の参加で力強く中野区を発展させることは容易でないと私には思えます。

区政にあまり期待しない多くの区民と、区民の働きに大いに期待している行政とで作る田中区政4期目が始動しました。

地域支えあい推進特別委員会

区は、地域支えあい推進室を設置し、高齢者（70歳以上の単身者、75歳以上のみで構成される世帯）と障がい者等を見守るための名簿作りを進めています。平成26年8月現在、区内町会110町会中74町会に名簿が提出されました。

- また、見守り名簿とは別に、震災時避難行動要支援者の名簿作成等にも取り組んでいます。この名簿は、震災時にあって、高齢者・障がい者を救い出すことを目的とします。
- 現在の高齢者の状況を登録した名簿を作成しても、完成時や災害時、高齢者の状況（住まい方、介護度、体調等）変化していることが大いに考えられます。いざという時、情報と現実が異なる場合はかえって惨事を招くことにもなりかねません。
- 実行性、継続的更新等、全貌の見えないまま、多くの時間と人材を投入して名簿作りが始まります。

建設委員会

- 中野駅周辺の検討・整備、南部地区の大規模公園の整備、西武新宿線中井～野方間の連続立体交差の事業化、沼袋、新井薬師駅周辺の整備、大和町、弥生町のまちづくり、公共施設の老朽化等、大規模事業が山積しています。いずれも大きな予算と住民の理解が必要となる事業です。区民への丁寧な説明が求められます。
- また、中野四季の森公園の維持管理費には、年間8千万円以上の予算が必要です。今後新たに複数の大規模公園が作られれば、ランニングコストの増加が区全体の財政を圧迫していきます。

「被害者ノート HIGAISHA NOTE」ができました

必要な人が増えて欲しくない、でも、必要となつたとき必ず役に立つ… 途切れないと支援を被害者と考える会

毎日のように事件や事故のニュースが流れます。事件や事故は、それを引き起こした加害者、そして犯罪に巻き込まれた被害者を生み出します。私自身、10年前に勤務先商社の元上司に夫を殺された犯罪被害者遺族の一人です。

加害者は取調べを受けて「被疑者ノート」が作成され、国により弁護士が付きます。しかし、一方の被害者やその遺族には、何の保護も保障もないのです。

突然被害に遭った苦しみの中、または愛する家族を奪われた苦痛と悲しみの底にあって、被害者や被害者遺族は、警察や検察への対応、マスコミへの対応に追われる中、亡くなった家族を葬る様々な手続きを自らこなして行かなくてはなりません。何を誰に尋ねれば良いか分からず、弁護士の知人もなく、辛く長い裁判が始まります。そんな中でも、自分の仕事はもちろん、子育て・介護・家事・通院等、普段の生活が休めるわけではありません。当然、体調を崩してしまう被害者も多くいます。

2011年、このような苦境を体験した被害者等と、「改善したい」と賛同する支援者たち（自治体職員、弁護士、NPO職員、マスコミ関係等）が集まり、東日本大震災の被害者支援等を含む学習会を重ねてきました。

2012年3月、この勉強会を「途切れないと支援を被害者と考える会」と名付け、被害者になってしまった時に役に立つ「被害者ノート」を作成するプロジェクトを立ち上げました。メンバーは、各自の仕事を終えてから夜遅く、遠方からも手弁当で集まり、自分たちが味わった辛辣な体験を出し合い、自分が被害に遭った時こんなノートがあつたら…との思いを込めて纏めてきました。その後、市民活動として2つの機関から助成を頂き、今年7月にノートを完成、出版することができました。

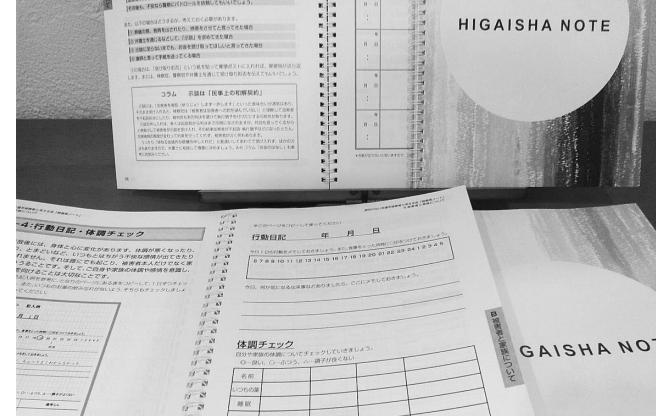
このノートは被害者に、まずは支援してくれる人がいることを教えてくれます。その支援者たちと記録を取りながら司法の流れに進んで行くことができます。警察、検察、裁判、マスコミ対応など、事件後に係る機関についての情報が載っています。何度も同じ事を問われても、感情的になり混乱して違うことを話さないよう、頭の整理をするにも役立ちます。

「被害者ノート」は、マスコミに採り上げられ、全国の被害者・支援者・弁護士等から購入希望が来ています。法テラスでも活用される見通しで、広く注目を集めています。

被害者が力を合わせて、社会に貢献できる大きな仕事ができました。お力を頂いた皆様に心から感謝しています。

途切れないと支援を被害者と考える会ホームページ

(<http://blogs.yahoo.co.jp/nakanobenkyokai>)



日経新聞 8月10日



読売新聞 7月24日



私の議会報告

全文は、小枝ネット「私の議会報告」に掲載しています

平成26年第1回および第2回定例議会において、
近藤さえ子は以下の質問をしました。(抜粋)

平成26年度第1回定例会 (2月17日~3月25日)

一般質問(2月21日)

犯罪被害者等基本条例の制定について

区の犯罪被害者支援の取り組みは全国的にも注目を浴びる一方、「これほど先進的な取り組みをしていて、他の被害者等支援自治体のけん引役でもあるのに、中野区にはなぜ、犯罪被害者等支援・又は基本条例がないのか」と尋ねられる。

区民が安全・安心に暮らせる地域社会の基本方針を打ち出し、犯罪被害者等基本条例を制定すべきだ。

予算特別委員会総括質疑(3月3日)

1.職員2000人体制について

メンタル系の病気休職者が多いのは、急激な職員削減の影響ではないか。介護休暇等制度は充実しても休暇が取れない。ぎりぎりの人材配置は1人、1つ、どこか崩れると区民サービスに支障を来たす。少数精鋭の職員たちが生き生き働く職場を目指すべきだ。

(人事担当副参事)休職者20名うちメンタル系13人。休職は個人の問題など様々であり、職員削減とは結びつけていない。

2.介護保険について

病院から在宅へ、どのような体制が取られているか。老人保健施設誘導整備は進んでいるか。積極的に誘導等の情報発信をして欲しい。次の介護保険事業計画では、老後の住宅政策等も盛り込んだ計画の策定が望ましい。

(福祉推進担当副参事)、具体的な計画は進んでいないが、誘導整備などの情報発信に努める。住まい方についても合わせて検討したい。

3.条例に対する考え方について

区長ご自身がわざわざ条例に多選自粛の努力規定を盛り込み、区民と約束された大変重い条例であり、守るべきである。

(区長)区民の皆様に判断していただきたい。

4.人権尊重教育について

子どもたちに他人の人権を尊重する心を育てることが大切である。

(指導室長)いじめ対応も含め、人権尊重教育を充実させていきたい。

平成26年度第2回定例会 (6月26日~7月11日)

一般質問(7月2日)

1.区長の所信表明について

区長は「今回の選挙結果は、これまで区民が力をあわせて作り上げてきた成果を、これからも共に前進させていく」と言う力強い区民の意思の表れであると受け止めている」と言うが、29.49%の投票率の選挙結果、「力強い意志を表す区民」の数はあまりにも少ない。

(区長)区長選挙の結果は、区民の力強い意志の表れである。私も4年間、全力を上げていく。

民生委員の欠員、次世代委員の欠員、町会の加入率の伸び悩みを見ても、多くの区民の参加で力強く区民と共に中野区を発展させることは容易なことではないと思う。

(政策室長)意欲や能力に応じた多様な働きの場が用意され、社会貢献できる機会が得られる社会の構築が必要である。

介護保険事業は国から次々移管され、自治体により介護サービスの差が大きく広がる。現在の高齢者施策は、健康づくりと地域支えあいしか見てこない。喫緊の課題である高齢者施策の対応に、スピードに取り組むべきだと考える。

2.公教育の充実について

大阪市教育委員会は、一定レベルを超える問題行動を繰り返す児童・生徒に対して、一時的に在籍校から引き離し特別な指導をする特別教室を新設することを決定した。

私は以前、いじめに合い不登校になった生徒が別の場所で勉強し、授業を妨害する等問題行動を起こす生徒は堂々と学校生活を謳歌しているのはおかしいのではないかと発言をした。眞面目に授業を受けたい多くの児童・生徒の授業を受ける権利を最優先して欲しい。

(教育長)警察を含む関係機関との連携、教員免許を持った人材の配置、PTAへの協力要請、指導主事の派遣等、総合的に行っている。

教員OB、学生ボランティア等にも協力を呼びかけ、学校内での特別授業の実施や、問題行動を起こす児童・生徒たちに社会性や道徳心等を育てるための取り組みを始めることが大切だと思う。

(教育長)保護者の了解のもと、学校の教員が指導することが基本だが、教育委員会は、必要に応じた人材の配置等を計っている。



<http://saekonikki.exblog.jp/> 日々の活動をお知らせしています。

7月6日 区道の適正な管理

建設委員会で、区道の適正な管理が指摘されました。

我が家の中には、かつての小さな水路(ドブ)跡があります。この水路跡は区道の扱いとなります。私の父は、この役立たない裏側の2mの水路跡と、家の前の区道側の土地を交換に、公共道路分の固定資産税を払い続けてきました。水路跡の区道には樹木を植え、毎年剪定し、草むしりをして我が家庭の続きとして管理していました。

自宅の土地を役に立つ公共地に提供し、その一方で、使えない土地の樹木を守り育て、地域の環境と公共の福祉に貢献してきた隣家の先代や父ら、昔の人の頑固なまでに縁を守ってきた精神を感じられます。

今後、区道の管理が厳しく行われれば、縁が伐採され、コンクリートの区有地になる可能性もあります。環境を考えると残念ですが、区道は適正に管理しなくてはならないので、仕方ないと思っています。

◆ 2月9日 雪かき

- ◆ 大雪が降った翌日曜日、ご近所の皆さんが除雪作業を行いました。
- ◆ まず自分の家の前、次に道路を除雪するのですが、高齢者のお宅やアパートの前は除雪されていません。
- ◆ 私は、2世帯暮らしの高齢者のお宅を訪ね「お孫さんにも出て来てもらうようにお願いします」と、若い方に除雪を手伝うよう呼びかけました。
- ◆ 地域の助け合いの大切さを感じた雪かきでした。



こえだ 小枝ネット(ホームページ) http://homepage3.nifty.com/koeda_net/

* * * * *

近藤 さえ子プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・11中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(3期) 趣味:テニス

* * * * *

こえだ 近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所
〒165-0027 中野区野方6-45-13
TEL & FAX 03-3330-9584
E-mail saekokondo@mbh.nifty.com

* * * * *